上伊那教育の未来を語る会

子どもとともに幸せに生きるには

～これからの教職員のありかたを考えましょう～

6 月 24 日（金）、今年度新設した「上伊那教育の未来を語る会」を、加藤敬一先生（春富中学校教諭、上級教育カウンセラー）を講師にお迎えして開催しました。「子どもとともに幸せに生きるには～これからの教職員のありかたを考えましょう～」をテーマに、約 30 名の受講者が集い、一緒に学び合いました。

＜講師　加藤敬一先生＞

加藤先生の教師としての実践や専門的なお話、ペア活動を通じて、「これからの教職員の姿勢」について学びました。実践した「構成的グループエンカウンター」により、はじめは硬かった受講生の表情が、研修後半は爽やかな笑顔に変わっていく様子が印象的でした。

＜受講者の感想＞

◯この会の要項を見た時「対象に支援員」とありました。支援員が参加できる研修の機会がなかなか無いため、参りました。とても勉強になりました。普段の何気ない会話、子どもたちがたくさんの話しかけてくるのはつながりを求めているのだと理解しました。加藤先生に関わってもらっている子どもたちは、幸せですね！ありがとうございました。

◯教師 2 年目です。昨年と同じクラスの担任をしていますが、先日、今春の Q-U の結果を見たところ「不満足群」の子が昨年より増えていることにショックを受けました。校長先生に相談したところこの会を勧めていただきました。振り返ると、不満足群の子たちは休み時間一人で過ごすことが多く、彼らが求めていたのは「人とのつながり」だったのだと、今日の研修で気付かされました。だとすると、私の役割は「子ども同士をつなぐこと」だと思います。加藤先生に教わった「対話的・共感的」に子どもたちと向かい合っていきたいです。

○「１時間１時間、子どもたちを幸せにしようと思って授業をしている」という言葉が心に響きました。私も日々の生活の中で心に留めておきたいと思います。セロトニン、オキシトシンという科学的な視点で、支え合い、認め合い活動を捉えれば、日々の授業や活動の中に採り入れやすくなるかもしれません。

○今年度から支援員として子どもたちと過ごさせていただいています。その中で、毎日悩む日々でしたが、「治そうとするな、分かろうとせよ」「分かるよう努力する」「対話的・共感的」考えさせられました。振り返ると、ここ数ヶ月で慣れてしまった自分がいましたが、大切にしなくてはならないことを今日学び直すことができました。貴重な機会をありがとうございました。

○知障学級の担任をしています。昨年行った生活単元学習の中で、子どもが一番生き生きしていた活動は、原級の子たちとの関わりがあった授業だったなぁと、今日「オキシトシン」についてのお話を聞いて思い出しました。これからも児童が友と関わり「幸せ」「楽しさ」を感じて、人と関わる良さを実感できる活動をしていきたいと思いました。

参加していただいた皆様、ありがとうございました。